

普及活動検討会実施報告書

(大崎) 農業改良普及センター
実施月日：令和6年2月5日
実施場所：大崎合同庁舎501会議室
(単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
	(1) 令和5年度プロジェクト完了課題の実績報告 「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」(課題No.2)
	(2) 令和5年度プロジェクト課題の進捗状況 「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」(課題No.1) 「中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上」(課題No.3) 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」(課題No.4)
	(3) 令和6年度新規プロジェクト課題検討 「加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立」
	(4) 意見交換

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	(1)	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

※ () 欠席

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
<p>検討項目【R5 完了】 「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」</p>	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・冬囲いに限らず、生育すべてに共通の技術が確立できたことが良かった。囲い栽培に向く品種、管理等を示してください。 ・混合堆肥複合肥料の活用の成果が見られたこと、囲い栽培の温湿度環境の見える化はよかったです。水田機能の活用のことわかりました。 ・新しい取組であり、栽培方法の工夫と販売の工夫で農業者の収益向上につながってほしい（若い農業者のやる気向上へ） ・当JAの重点品目であり、排水対策や混合堆肥複合肥料の導入では一定の成果が得られた。冬越し囲い栽培では異常気象による収量の低下から取扱いが減少したが、これらの取組によって部会活動に尽力いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本課題で得られた知見は、他JAのねぎ部会など管内の農業者、特に若い農業者の生産意欲向上につながるよう波及させてまいりたい。 ・今後、販売面につなげられるよう産業技術総合センターや農業・園芸総合研究所とも連携しておいしさの違いも検討する必要があると考えている。
<p>検討項目【R5 継続】 「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」</p>	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化へのステップを手厚く援助がされていると思う。法人化後の自分の経営、収支が最大のポイントとなると思う。 ・地域の生産者の方々を取り込んでしっかりきめ細かい支援がされていて素晴らしい。 ・ベテラン農業者、若手農業者との温度差があると思う。希望を持てる法人の実現をお願いしたい。 ・ワークショップ形式による座談会によって結果が見える化し、未来手帳によって共有する効果は大きい。農地整備と地域計画策定のタイミングもあって、地区の営農体制の構築支援に貢献していると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は地域全体での座談会の開催が主体だったが、来年度は法人化に向け、法人で主に営農を担うメンバーで具体的な話し合いを進めていく。 ・今後ともベテラン農業者や若手農業者の意見を出し合い、議論が尽くせるよう普及センターで支援していきたい。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
<p>検討項目【R5 継続】 「中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上」</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して来客数を保つことの難しさがある。他の地区内施設との共同イベントの開催を検討してほしい。 ・農産物直売所の発展的な継続のための取組が素晴らしい。他の同時イベント開催は前向きな検討が大事だと思いました。 ・生産と販売を連携させて生産者が新しい品種に前向きに取り組むのが素晴らしい。 ・運営法人の会員が高齢化する中、プラビラボといった若手生産者を事業運営に参画させることで事業活動が活性化し、事業継承の足掛かりに繋がっているが、将来に向け抜本的な運営体制の改革が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内にある他の観光施設との連携については、対象からも進めていきたい意向を確認しているので、普及センターとしてもイベント開催等に向け助言していきたい。 ・来年度は事業継承の足掛かりを作り、若手生産者が事業運営に参画できるよう専門家派遣などにより引き続き支援していく。
<p>検討項目【R5 継続】 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・子実用コーンが輪作に加わることで収益性の向上ができればよい。それぞれの品目ごとに必要な設備投資が必要。費用をどのように抑えるかが課題。 ・わからないところもあるのですが、輪作は画期的な取組だと思うので、さらに定着していくような支援が必要とも思いました。 ・乾田直播の技術は今後、農地の集積とともにメジャーになっていく（ならざるを得ない）と考える、技術の確立とともに収量は上がってくると思われるので、収穫以降についても農業者（生産者）に還元されるような仕組み作りが必要か。 ・排水対策やドローンによる害虫防除によって収量の向上が見られたことから、成果があったと思われる。後作の大豆についても乾土効果の影響からか収量の増加はうなずける。しかし、水稻の乾田直播栽培は難易度が高いことから、更なる栽培技術の確立が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子実用とうもろこしは昨年度よりも収量が向上したが、栽培技術的にまだ不安定な部分がある。また、乾田直は栽培も技術支援が必要であるため、引き続き、関係機関と連携しながら技術指導していく。 ・今後は輪作技術体系の確立とともに、経営的な面でのメリットがどのようになるのかも併せて示せるように検討が必要と考えている。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
<p>検討項目【R6 新規】 「加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立」</p>	<p>4.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加美西部の土質に合うか。増収のポイントを示して栽培者拡大につなげてほしい。 ・需要のあるさつまいもの栽培はとても良いと思いますので、高品質で安定生産できていくことを期待したいです。 ・新しい取組であり、栽培技術の確立の支援をお願いします。 ・振興作物に位置付けており、普及拡大を目指している。栽培管理が比較的容易とはいふものの、新規導入作物であることと、本格的な栽培はこれからであるため、栽培技術の確立に向けた更なる支援活動に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当管内の産地化に向け、地域内で先進的に取り組む生産者のノウハウを見える化しながら、加美地域の環境に合わせた栽培技術体系の確立できるよう関係機関と連携しながら取り組んでまいりたい。